

WRV NEWS LETTER

WILDLIFE RESCUE VETERINARIAN ASSOCIATION

No.132

2025.3.25



No.132

()

!!

!?

2-5

6-9

10

11

11

11-12

()

2024 9

82 63
67% 169 63
202 3.2

A C A A

5
2.6% A 4.9% A

10
10 200 300 50% 9 10
47%

9% 15%

17

76% 10%

5

10

14%

2023

12 14

(

)

9

1552

111

1718 /

880 /

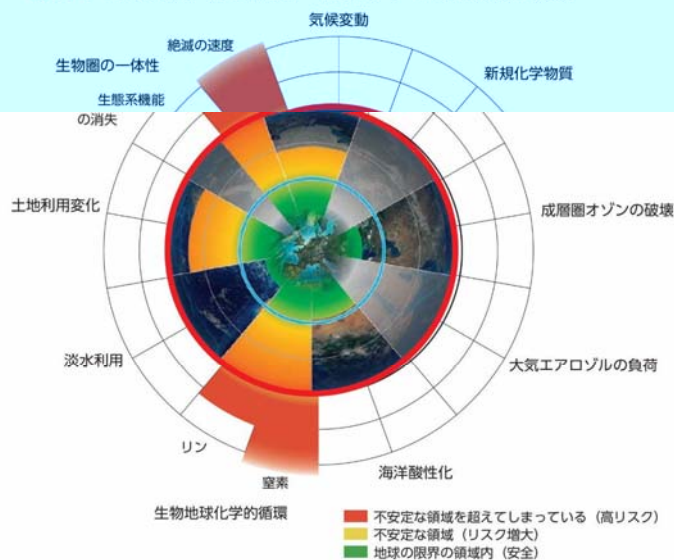
	国土面積	哺乳類種数	鳥類種数	植物種数
日本	378000km ²	107種	542種	5300種
英国	243000km ²	42種	542種	1623種
ニュージーランド	268000km ²	3種	295種	2089種

生物種数の国別比較

2022 6 23

プラネタリー・バウンダリーが指摘する「気候変動」、「生物多様性」、「土地利用の変化」、「窒素・リン・窒素・生物地球化学的循環」の危機の現状を以下に概観します。

図1-1-1 地球の限界（プラネタリー・バウンダリー）による地球の状況



資料：Will Steffen et al. [Guiding human development on a changing planet]

10

住民の不安や懸念

景観・バードストライク・低周波音による健康被害の懸念

土砂災害危険渓流/斜面崩壊危険区域・水源涵養保安林内の開発

事業者：脱炭素に寄与
地元住民との共存共栄

住民：なぜ自分たちが暮らす地域に
押し付けられるのか。
地域にとってのメリットは何か。

現状)

地域の共有財（山林・水資源など）は将来にわたり持続的に受け継いでいくべきもの。
しかし現状は、少子高齢過疎化が止まらず地域外からの自由な経済活動を行う発電事業者の利潤追求の場になっている。

地域に合った発電

意思決定に地域住民が参画する

エネルギーの地産地活

経済の域内循環

各法の問題（アセス・再エネ海域ほか）

累積的影響評価

モニタリングの制度がない

ほか…

Meeting to know the truth of wind power

11

1

1

1,000 3,000kW

6

3,000kW

100kW

12.

13

2024 7

9/14

, , ,

<https://kokudo-hozen.org/>



14.

「野生動物リハビリテーター養成講座」開催の報告

WRV副会長／大阪支部長

NPO 法人“野鳥の病院” 代表理事 中 津 賞

●野生動物リハビリテーターの養成

野生動物救護は、本来無償で行なわれている。また、救護対象の動物は 99%が野鳥である。しかし、これに携わる鳥類医学に精通した獣医師は極めて少ない。そうした獣医師はもっぱらペットの鳥類の診察はするが、傷病野鳥の受け入れは拒否することも多い。その理由が、入院鳥への感染を危惧しているためであるが、獣医師は感染防御の専門家でもあるので、これは理由にならない。

獣医師の元で治療された野鳥が自然界で生き延びるためには、野生復帰の訓練が必要である。それには、野生動物専門のリハビリテーターが多数必要であるが、野生復帰を支援するリハビリテーターを養成できる獣医師も、また極度に不足している。

そこで傷病野生動物の救護ができる獣医師、動物看護師を養成して、この分野での底辺拡大に努める必要があり、また救護の現場におけるマンパワー不足を解消するために、一般市民ボランティアの養成も不可欠である。一般市民がこれらの活動に関心を持つことが、野生動物の保護、生物の多様性保全、ひいては環境保全につながると考えている。

市民から動物病院に持ち込まれる傷病野生動物は、獣医師の治療により統計的には 50%が回復を示す。治療期間が短く、野生下での生存能力が十分回復している症例は、出来るだけ早期に野生復帰をさせているが、飛行能力等の回復に時間を要する場合も多く、治療が終了しても直ぐには野生復帰出来ない鳥については、市民ボランティアの里親に預託して、採餌能力、俊敏な行動の確認及び飛行能力の向上に努め、自然界での激しい生存競争に勝って、生き延びていくための確実な回復を支援することが重要になってくる。

昨今の野生動物救護に関する獣医学の発展は目覚ましく、救護の初期治療の改善による救命率の向上、整形学的骨折治療技術の飛躍的発展により、翼や脚を骨折した個体も飛行を早期に再開でき、適切な飛行リハビリテーションで、短期に野生復帰を果たせる飛行能力と耐久性を獲得できる。その結果、放野後の生存率の向上が期待できる。なお、これまで放野後の行動調査はほとんど行なわれてこなかったため、今回は、追跡用発信機をつけた鳥の行動調査法もカリキュラムに取り入れた。

コロナ禍以降、予定していた講習会場の提供が受けられなくなったため、今回(第7回)のリハビリテーター養成講座は、(NPO)野鳥の病院の支持母体である中津動物病院で実施した。今回は新たに、理学療法士による専門的実践的理学療法を取り入れた。また、鳥のイソフルレン吸入麻酔による全身麻酔法の修得と、MMK(ミタゾラム・メディミジン・塩酸ケタミン)バランス注射麻酔法もカリキュラムに初めて取り入れた。そして、麻酔下での骨折の整形外科的手術法(IM-ピンと創外固定ピンの Tie-in 法)を、獣医師が生体のハトを使って、倫理的に十分配慮した上で実習した。手術中の麻酔管理については動物看護師が行い、実際に即した形で実習ができた。

(NPO)野鳥の病院では、養成講座をすでに6回開講しており、大阪野生動物リハビリテーターの有資格者は、120名(獣医師・獣医学生、動物看護師・看護学生、一般市民)を超えている。コロナ禍で3年間中断していた本講座を、3年ぶりに開講したいと SNS を通じて全国に募集したところ、13名の参加者を得た。うち、鹿児島、広島、滋賀、岩手、富山、神奈川、兵庫、京都と遠方から多くのご参加をいただいた。なお大半の方が、実際の現場である各地の野生動物保護センターに勤務されているようである。特に遠方の方は前泊を含め、費用負担も大変だったと思われるが、皆様の熱意に答えるべく、以下のような内容で、リハビリテーターに必要な知識と技術を学んでいただいた。

講座は、原則として各月の最終日曜日に計7回開催した。午前 10 時に開講し 2 時間は講義、午後 1時から3時間は実習、終了時間は 16 時。遠方からご参加の方も居られたので、この終了時間は厳守した。なお、全ての資料は USB メモリーから各自の PC に入力し、印刷物を減らすよう努力した。

第1回講習会 6月30日(日) 野生動物救護初級

- ① 野鳥救護に関する法律知識：大阪府動物愛護畜産課 獣医師 徳原先生
- ② 野生動物救護の基礎知識：中津
- ③ 実習：指導－野生動物リハビリテーター
(1) 救護に必要な基礎技術、鳥種の同定と食性の理解
(2) 給餌時の鳥の保定法、各種強制給餌法
(3) 脱水の判定と輸液法、骨髓内輸液法の習得

第2回講習会 7月28日(日) 野生動物救護中級

- ① 大阪府で被害が予想される生息数の多い鳥の生態（鳥の種類、生態、生息状況）
：日本野鳥の会大阪支部長 納家氏
- ② 獣医師法と野生動物救護について－現場における救急処置：中津
- ③ 実習：野外での動物の保定法、現場で処置すべき技術、骨折局所の取扱と固定法、包帯法
指導－野生動物リハビリテーター



第3回講習会 8月24日(土)と25日(日)

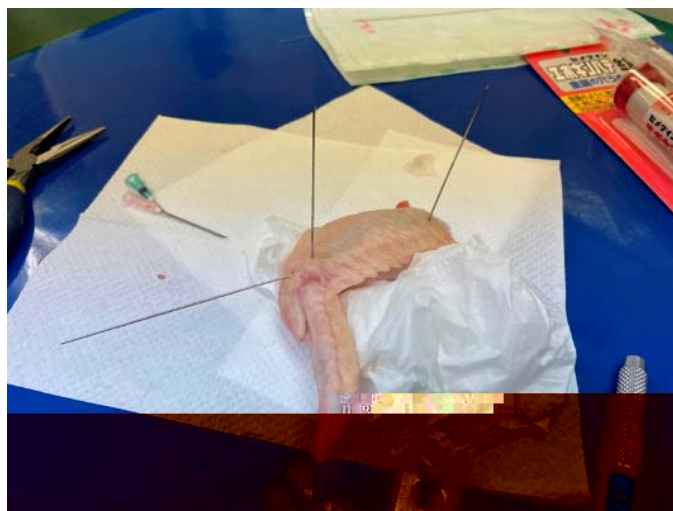
- ① 大阪湾で被害が予想される生息数の多い水鳥の生態（水鳥の種類、生態、生息状況、被害影響調査法）：WRV事務局長 箕輪
- ② 油流出事故に関する基礎知識：海上災害防止センター・西日本支所長 矢野氏
- ③ 油汚染水鳥の救護法：中津
- ④ 実習：油汚染救護施設での被害鳥の身体検査から、採血法・血液分析・油除去法、洗浄・乾燥法、リハビリ用水槽の組立法実習と解体・収納実技を含む。
指導－中津＋野生動物リハビリテーター



第4回講習会 9月29日(日)

- ① 救護技術の詳細について（創傷管理と各部位の包帯法、骨折部位の固定法、翼の固定、その他の現場での対応法、搬送法と搬送中の注意）：中 津
- ② 実習：鳥インフルエンザのキット簡易診断法、市販の手羽先を使って、骨髓内輸液法の練習。橈骨に骨折を作成して、逆向性に髓内ピン挿入と、ESF ピン結合による骨折整形手術。

指導－中津＋野生動物リハビリテーター



TIE-IN

第5回講習会 10月27日(日)

- ① 指骨骨折症例の固定法（指間包帯法、8字包帯法の詳細）：中 津
- ② 実習：冷凍保存中の実際の野鳥の死体を使っての、逆向性に髓内ピン挿入と、ESF ピン結合による骨折整形手術と順行性 TIE-IN 法の習熟。指導－中 津
＜獣医師＞上腕骨、橈骨尺骨、その他の骨折の整形外科：ESF ピンと骨髓内固定ピンの Tie-in による手術法、体重 100g 以下の鳥の骨折整復に使えるアロンアルファによる脛足根骨と大腿骨骨折の固定法。
＜動物看護師、一般＞体各部の包帯法：副木各種の装着法、今までの技術の修得と習熟に努める。



TIE-IN



第6回講習会 11月24日(日)

- ① 鳥類の理学療法について：理学療法士・野生動物リハビリテーター 菊池先生
- ② 実習Ⅰ：温熱療法と関節可動域の測定法、マッサージ法 指導－菊池先生
- ③ 実習Ⅱ：市販の手羽先を用いての骨折の整形外科（ESFピンと骨髄内固定ピンのTie-inによる手術法の習熟） 指導－中津

第7回講習会 12月22日(日)

- ① イソフルレンによる吸入麻酔法とMMKバランス麻酔法（腹腔内注射法）：中津
- ② 実習：動物福祉に十分配慮して、生体ハトを使用しての全身麻酔下でのESFヒピンと骨髄内固定ピンのTie-in法。動物看護師は、獣医師が行った麻酔導入後に、麻酔深度の調整と覚醒過程での管理の要点を習得。 指導－中津



TIE-IN

IM ESF Tie-in

Tie-in method with Intramedullary pin + External-Skeletal-fixators

以上7ヶ月にわたる講習会も無事終了し、参加者の熱心な受講態度に感動している次第である。

※各項目の中で特に興味の引くものについては、講義内容や実習内容の詳細を開示できますので、ご連絡ください。

NPO 法人 野鳥の病院

代表理事 中津 賞(なかつ すすむ)

中津動物病院院長 獣医師 獣医学博士

野生動物救護獣医師協会(WRV) 副会長・理事・大阪支部長

日本野生動物医学会 評議員

大阪府動物救護等対策委員会委員

〒590-0960 大阪府堺市堺区少林寺町西 2-2-15

電話 072-232-6472

FAX:072-229-5104

URL: <http://www.nakatsuvet.com>

e-mail:nakatsu@nakatsuvet.com

!!

!!

NPO

カッコウの仲間は変温動物!?

10

1



40

36

30

40

30

WRV

	6	12	1	7	2	28
○	2025.2.3			7,000		
○	2025.2.26			300		

2024.12.16 2025.3.14

12						
19,21,22						
19,21,22		(2)				
22			7			
24~25	3					
26						
30 WRV	No.131					
1						
05,09,11,16,19,25,26		(2)		(		)
07				WG		
09						
10						
13						
13 NTT						
15	5					
18						

21					
22	6				
23					
24					
25					
29		1			
30			()		()
	2				
01	42				
01,02,06,08					
01,02,06,08,11		(2)	(		)
02					
03					
05					
05		5			
06			()		
06~11					
07					
11			20		
13					